図書館友の会
けやき
ニュースレター

34号
2010.11.29

◇特集　知って欲しい！「図書館は生活になくてはならない施設」
◇Report　読み聞かせ交流会

特集　国民読書年の京都市図書館の取り組み

知って欲しい！「図書館は生活になくてはならない施設」

左京図書館はいつも賑わっていますが、実は京都市の図書館利用登録率は約26%（全市民に対して図書館カードを作った人の割合）。リピーターは盛んに利用しているものの、市民のうち４人に３人は図書館で本を借りたことがない、ということになります。

前号のニュースレター特集で紹介したように図書館は「市民の自立を助けるところ、よりよい人生を追求する事を支援するところ」。もっと多くの人に図書館を身近に感じ、利用してもらうにはどうしたらいいのでしょうか。国民読書年の今年、京都市図書館では「図書館不在」の状況を変えるべく、どのような取り組みをしているのか、中央図書館に聞きに行って来ました。そこで今までとは違う、積極的な動きがあることが分かりました。**広報による新たな利用者の発掘、読書活動の推進、「市民と共につくる京都市図書館」を目指す**、という三つの取り組みを紹介します。またけやき初期のニュースレターで特集した赤ちゃんや身体障碍者向けの取り組みについても聞いて来ました。

中央図書館：河口高志図書課長、尾上奈緒図書係長、浅見智信統括主任
けやき：永井、島崎　　2010年10月27日　京都アスニー会議室にて

中央図書館にインタビュー

「いつだって図書館！」

永井：京都市図書館の国民読書年の取り組みはどんなことをされていますか？

河口：よくある一過性の客寄せイベントで終わっては、図書館の役割が果たせないと考えて取り組みました。京都市図書館は政令指定都市間で比べると市民一人当たりの蔵書数は少ないですが、こまねずみのように何度も貸し出されている状態[注1]で盛況です。しかし、利用登録率は26%程度で図書館が生活圏に入っていない市民も大勢おられます。このような非来館者も視野にいれたサービスを展開して「図書館は生活になくてはならない大切な施設」であることを多くの市民に知ってもらう取り組みを行なっています。

永井：図書館の機能を知ってもらうということですね。具体的には

河口：パンフレット「いつだって図書館！」を９月に作成、図書館にはあなたにぴったりの本が必ずありますよ、図書館は身近で使いやすい施設ですよ、ということをアピールしています。

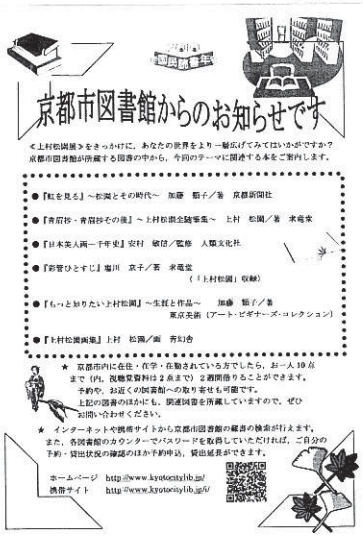
島崎：生活の色々なシーンで図書館が役立つことが具体的に分かるパンフレットですね。

河口：かつての学生の勉強部屋、貸本屋のイメージから、図書館は市民が主人公の根幹の施設、そこに来てもらう誘いとして活用していきたいです。

永井：どこでこのパンフレットは配布されていますか？

河口：地下鉄主要駅や区役所、保健所をはじめ様々な市の施設に置いています。今後も継続して補充して行きます。PTAフェスティバルや女性会等の研修会などでも出向いて行って、「いつだって図書館！」という思いをどんどん伝えていきたいと思っています。

注1）平成21年度、京都市図書館の入館数は約430万人、貸出冊数約787万冊、全蔵書が４.3回貸し出されている計算。



左・図書館が誰にとっても身近なところをアピールするパンフレット「いつだって図書館！」
右・上村松園展で配布された「京都市図書館からのお知らせ」

美術館、動物園、講演会にも ブックリストを提供

河口：また図書館や本を紹介する「京都市図書館からのお知らせ」チラシも配布しています。

永井：これはどういうものですか？

河口：京都アスニーや京都市美術館，動物園、京都府立植物園、国立京都博物館などでの催しに併せて、テーマに沿った京都市図書館所蔵本のブックリストを載せたチラシです。例えば京都アスニー・ゴールデン・エイジ・アカデミーは600名も来られる人気の講座ですが、ここで講座のテーマや講師に関連する本をチラシで紹介。併せて京都市の全部の図書館の開館情報も載せています。このチラシをきっかけに図書館に来られる方もあります。本で講座で知った世界をさらに深められると好評です。

島崎：京都国立近代美術館の「上村松園展」でも関連本をこのチラシで紹介されているんですね。確かに絵を見た後に本のリストをもらったら、読んでみたい、と思いますね。

河口：選挙管理委員会主催の政治文化セミナーでもレジュメの中に「京都市図書館からのお知らせ」を入れてもらいました。このようなブックリストがあると講座の価値も高まると主催者にも喜んでもらいました。京都市図書館が20館あることも知ってもらえます。

島崎：行政主催の色々な催しに機動的に情報提供されるようになったんですね。

河口：館長会でも申し合わせて、催しに合わせて図書館の機能をアピールして行こうと。図書館不在と言われないように図書館の存在を知らせ、近くの図書館に来てもらえるよう、ずっと続けていこうと思っています。

永井：左京図書館の映画上映会では関連本の現物を展示して、映画を見た人がそのまま借りられるようにしていますが

河口：京都アスニーシネマでも、できるといいと思っています。10月15日に中央図書館は隣のアスニー１階にある平安京創生館特別展示場で「古典の日ブックトーク」を開催しました。「平安京と香りの文化」という展示に合わせてお香の本を紹介。ブックトラックでミニ展示をしたところ、とても反応がよかった、ということがありました。このようなタイムリーな資料提供をしていきたいです。

読書活動の推進

永井：図書館が学校へ出向く活動は？

尾上：中央図書館には授業関連のブックトークの依頼があります。例えば６年生の修学旅行の事前学習で震災のブックトークをしました。シリアスな内容でしたが、子どもたちは真剣、先生方もブックトークという手法に興味を持たれました。

永井：学校図書館と公共図書館との関わりについては

尾上：学校図書館と公共図書館は役割が違うと考えて来ましたが、学校図書館には資料が少ないという現状があり、今は、公共図書館がどのように支援できるのかを考えています。

永井：小学生の図書館見学については

尾上：中央図書館では小学生を中心に受け入れています。

河口：子どもを通じて家族にも図書館の存在が伝わり、家庭での図書館利用にもつながると考えていますので、できるだけ見学に来てほしいとお願いしています。昨年度は京都市全体で68校3785人の児童・生徒が見学に来ています。

尾上：通り一遍の見学ではなく、図書館が生涯にわたって自分の役立つ、問題解決につながる場所と分かってもらえるプログラムを考えていかないといけない、と思っています。

永井：司書が学校に図書館の役割を説明しに行く自治体も多

いですね。かつての小３の見学は社会見学の一環で、図書館の役割を子どもたちにぜひ知ってほしいと思っている自分としては物足りない気がしていました。総合学習が始まってからは見学に来る学校も減っていますね。全小学校が図書館の見学体験ができるようにしてほしいと思います。また、もっと積極的に図書館から学校に働きかけて行ってほしいと思っています。尾上さんがこの春までおられた醍醐中央図書館では「出前貸出し」として学校に出向いておられたのですね？

尾上：はい、昨年は３校に。

島崎：出前貸出しとは？

尾上：司書３名、図書係長１名で学校に本をもって行き、そこで貸出しをします。本は子どもの数×2.5冊を基準にそれ以上用意し、教室を借りてミニ図書室とします。１クラス20分で１人２冊。ほとんどの子が借りて行きます。

島崎：図書館カードのない子は？

尾上：カードは先生の手を借りて事前に渡せるように用意します。持って行く本の選定にも気を配っています。公共図書館として行くので、人気本はあえてはずして、読み継がれている基本図書、この年齢でぜひ出会ってほしい本を持って行きます。自分で本が探せない子には１対１で話をして手渡しています。本との架け橋ができる、という手応えがあります。

島崎：他の図書館ではこういう活動はしていないのですか？

尾上：下京図書館で11月に予定しています。

河口：かつて伏見中央図書館ができた頃、図書館の存在がまだまだ知られていない状態のなかで、地元の小学校の新入学児童保護者説明会で図書館が会場に出向いてアピールしカードを作ってもらったことがあります。今後も子どもに働きかけると同時に親も一緒に図書館に来てもらいたい。地域の図書館として親にも子どもにも読書が大切ということをもっと知っていただきたい。

尾上：醍醐中央図書館の出前貸出しでは、そこにも着目していて、低学年対象の出前貸出しでは，親と一緒に図書館に本を返しに来てください、と声を掛けました。返却に来た親子の３分の１はリピーターになります。児童コーナーで一緒に本を探すという光景もよく見ました。

島崎：自分の子どもの学校にも出前貸出しが来てほしいと思う人はたくさんいると思います。

河口：残念ながら現状で全校でするにはマンパワーが足りません。

市民と共につくる

永井：「本の木」の取り組みは

河口：利用者から利用者へ本を紹介するという取り組みで、全20館で行なっています。各館とも様々な楽しい工夫を行なって好評です。

永井：左京図書館は子どもからの紹介は多いが、大人が中々のようです。

河口：中央図書館も同様です。また右京中央図書館では10代の利用者へおすすめ本を紹介する「ティーンズみんなの木」もあります。左京図書館には「中学校図書委員による本の紹介」展示がありますね。

島崎：地域の中学校の校内に掲示されている生徒作の本の紹介ポスターを地域の図書館で広く見てもらえたら、とけやきで発案して始まった企画です。左京図書館と中学校が連携してくださり、毎年開催できているのがうれしいです。

永井：「市民と共につくる京都市図書館」の一環で郷土資料を集めておられるのですか？

河口：はい、「おらが図書館」、地域への関心につながると考え、取り組んでいます。例えば向島図書館では巨椋池干拓とその後の変化の写真を図書館に掲示したところ、来館者からもっとこんな資料があると提供があり、そのような住民の資料を活用して資料展「向島」をこの夏から冬にかけて３回シリーズで開催しています。地域にも図書館にも関心が高まった成功例になったと思います。久我のもり図書館でも橋ができる前の写真展示に反響があり、地元では古いアルバムを集めておられます。

永井：左京図書館で昨年開催した「左京区の鉄道展」は懐かしい電車や風景の写真に反響があり、図書館に足を運んでもらうきっかけになったと思います。

河口：向島図書館では昔の地図に基づいて「昔の道を歩こう」というフィールドワークも開催されました。伏見中央図書館では地元企業の酒蔵で講演会を開いていますし、久世ふれあいセンター図書館では音楽物語「鶴の恩返し」の朗読と音楽のイベントが開催されました。

永井：10年前と比べて立体的な活動が増えていますね。けやきが訴えて来た思いが伝わっていると感じます。とても励みになります。

河口：館長会でもいいアイデアは互いに学び合っていこうと言っています。中央図書館では市立芸大や市立美術館、さらに他の行政機関ともコラボレーションしていきたいと思っています。

島崎：積極的な広報や活動の広がりで図書館が市民にとってもっと身近な存在になることを期待しています。

赤ちゃん向けの取り組みは

尾上：醍醐中央図書館では赤ちゃんと絵本の出会いの場をプレママの時にしたい、と保健所に働きかけたところ、保健所のサークル活動として図書館を見学したい、という申し出があり、よちよちクラブの図書館見学が実現しました。早いうちからの本との出会いの促進になりました。

永井：保健所の８ヶ月検診時に本や図書館を紹介する絵本ふれあい事業について、ボランティアとしてその現場にいる立場から言うと、開始から７年たっても図書館へリンクする仕組みが中々できていない。図書館がもっと首をつっこんで頂きたい。左京図書館では「赤ちゃんに絵本を」サポーター活動をしていますが、１回に10数組来て、ボランティアはマンツーマンの対応でふらふらになることも。それでもこのように継続的な受け皿を作っていると、図書館通いが生活の一部になった親子が増えたようです。

河口：赤ちゃん向けの事業はかつてより、ずっと増えています。

障碍者サービスについて

永井：視覚障碍サービスは？

河口：「音の文庫」[注2]が始まって、利便性が向上しました。図書館とライトハウスの連携で流れがスムーズになり、利用も伸びました。

尾上：「音の文庫」は醍醐中央図書館とライトハウスの連携で始まりました。当時は醍醐中央図書館に現存する資料しか届けられませんでしたが、右京中央図書館が開館し、AV資料が全市的に利用できるようになったので、ライトハウスの職員さんが利用者に代わって予約が出来るようになりました。このため利便性がさらに上がりました

永井：蔵書目録を音声サービスで流す予定はありますか？

河口：ありません。それより、現在はライトハウスが効率よくきめ細かいサービスを運営しており、分業でライトハウスの協力を得て運営するのが得策と考えています。新しい資料にはライトハウスで点字ラベルを貼ってもらっています。

永井：インターネット予約は

尾上：音声の出るパソコンを使える方はインターネット予約を利用している方もあります。

永井：聴覚に障碍のある方はパソコンを使えないとファックスが便利なのですが、図書館のパンフレットにファックスの番号が掲載されていません。

河口：問合せ窓口番号として、ファックスの番号は載せてもいいかもしれません。

注2）「音の文庫」とは来館することが困難な視覚に障碍のある方を対象に、京都ライトハウス情報ステーションを経由して京都市図書館の所蔵資料を貸し出す事業。平成14年3月開始。

けやきの活動 10年8月～10年11月

6/24　左京区ボランティア連絡会出席
(増井・永井)

8/2　ニュースレターNo.33　総会報告
印刷発送

8/4　左京区社協主催「共同募金配分金事業助成オープン報告会」出席 (永井)

8/下旬～　「読み聞かせ」交流会に向けて図書館と打ち合わせ
資料作成・印刷

9/6.10.17　「読み聞かせ」交流会

9月上旬～　ニュースレターNo.34
原稿作成・取材・編集

10月～　講演会準備
新企画「図書館で発表会」準備

10/27　ニュースレター34号特集のため中央図書館を取材

11/13　おとなのための語りを楽しむ会
(図書館主催行事には協力)

・7/24.8/28.9/25.10/23.11/27（第4土曜）
図書館おたのしみ会に協力

・9/24.10/22.11/26
(第4金曜日、3.7.12月は第2金曜日)
絵本学習会

・8/2.8/30.10/4.11/1（:原則第1月曜日）
事務局会議
図書館とのミーティング

・7/29.8/5.12.19.26.9/2.9.16.30.
10/7.14.21.28.11/4.11.18.25
(毎週木曜10:30－12:00)
絵本コーナーで‘あかちゃんに絵本を’サポーター活動

TOPICS

第10回 おとなのための語りを楽しむ会

11月13日

2001年からほぼ年1回開かれてきた語りを楽しむ会、今回で10回目!!となりました。今年は、図書館でチラシを見て初めて参加して下さった方も多く、長岡京市から来て下さった方たち、小学生と親子一緒に聞いて下さった方、それに男性の参加者も複数いらっしゃり、会の始めに挨拶して下さった館長さんも、みなさん最後までおはなしの世界を存分に楽しんで下さいました。

映画上映会

10月22日

毎年4回、視聴覚センター所蔵の教育ビデオ・DVDを使って、主に金曜日の午後に開かれていますが、久しぶりに参加することが出来ました。参加人数が特に多い訳ではありませんが、みなさんとても熱心に見入っておられました。会場には図書館の上映会ならではの関連図書が並べられ、すぐに借り出すことが出来て便利です。08年から「世界美の旅」のシリーズを毎回２本ずつ上映しており、今回は「ロートレック」と「ゴーギャン」でした。来年3月の次回は「ブリューゲル」と「ベラスケス」が上映されます。

鉄道模型公開運転会

10月31日

昨年左京図書館移転開館10周年の記念行事の一つとして開かれ大好評だった公開運転会が、鉄道友の会京都支部のみなさんの協力により、今年も開催されました。午前中から数時間かけて準備されたレールの上を縦横に走る列車/大人も子どももワクワクもう夢中…。　(永井)

けやきの本棚 34

私のおすすめの本

ウェイサイド・スクール はきょうもへんてこ

ルイス・サッカー作
野の水生訳
偕成社　２０１０年

この学校は、ひとつの階に一教室の、三十階建ての細長い校舎。最上階クラスの先生と生徒が活躍するへんてこなお話です。例えばテストで間違えたり、授業中にくしゃみをしただけで、先生が生徒をリンゴに変えたり、先生に三回注意されたら、正午には幼稚園バスで家に帰されるなど、バカげた所がとてもおもしろい。

（松ヶ崎小4年・山口真穂）

ネコの目で見守る 子育て

太田あや著　小学館
２００９年

福井県の小学生・中学生は、学力・体力ともに全国でトップクラス。「素直で意欲的に学ぶ子」はどうやって育つのでしょうか。「当たり前のことを当たり前にやる」という、学校・家庭・地域の取り組みを紹介しています。特に、家庭におけるつかず離れずのネコの目の距離は、参考になります。

（左京図書館・西垣）

あひるのジマイマのおはなし

ピーターラビットの絵本
ビアトリクス・ポター作絵
石井桃子訳　福音館書店

自分が産んだ卵を抱かせてくれない飼い主に失望し、一人でこっそり産み場所を探していたあひるのジマイマは、とても紳士的でハンサムな男性と出会います。彼の親切な言葉を信用し、導かれるままに大事な卵を次々と産み落としていくのですが…イギリス湖水地方の夢見るような風景とは対照的に、現実世界の恐さが語られます。

（下鴨・石川眞弓）

だって だってのおばあさん

佐野洋子作絵
フレーベル館　１９７５年

この十一月、佐野さんが逝ってしまわれた。エッセイだけでなく絵本も鋭く味わい深い。主人公は九九歳の誕生日の日から五歳みたいに元気になったおばあさん。佐野さんにも、九九歳いやそれ以上長生きしていただきたかった。

（高野・会員　永井）

■REPORT■

「読み聞かせ」交流会 「読み聞かせ」ボランティアの研修と交流の集い

2010年9月6,10,17日

第1回　講義「えほんたいけん・えほんたんけん」中川あゆみ氏

第2回　講義「やってみよう！読み聞かせ」山口文子司書

科学絵本・科学読み物ブックトーク

「つくつく寺に行こう！　身近な虫から広がる世界 」島崎真紀子氏

第3回　実践交流～3グループに分かれ、各自が持参した本を読み語り意見交換

読書ボランティアの方達の研修と交流の集い「読み聞かせ」交流会が、今年も左京図書館で９月6,１0,17日の３回にわたって行われました。この交流会は、学校での図書ボランティア活動が盛んになっていくなかで、公共図書館が積極的にボランティアを支援しようと、けやきが企画・協力し、左京図書館が主催して、2005年以来毎年開催されています。

昨年までは、絵本の基本を学ぶ講義、集団への読み語りについての講義、小人数グループでの読み語りの実践交流、各校のおはなし会などの活動についての情報交換、この4つが3回計6時間の交流会の主な内容でしたが、今回は、情報が出尽くした感があった情報交換の時間に替えて、新たに読書ボランティアの間で関心が高い科学読み物についてのブックトークをプログラムに加えました。それへの反響も大きく大幅に参加者が増えて、３回で延べ108人もの方が参加して下さいました。左京南部の9小学校だけでなく他区の小学校や保健所の絵本ふれあいボランティアなど様々な場で活動されている方の参加があり、熱気溢れる交流会となりました。今年は乳幼児を伴って参加された方もあり、参加者の熱意に企画者としてどう答えるか、交流会をさらに実りのあるものにするために図書館とともに考えていかねばと思いました。また、初めて「子どもの本についてさらに興味のある方へ」という京都市内で開かれている子どもの本の読書会と左京区南部の子ども文庫を紹介したリストをけやきで作成し、参加者に配布しました。

そして今年は、交流会のレジュメやブックリストなどの資料が、参加した9校だけでなく左京区南部の全ての小学校13校に図書館から送られました。実践交流の際に持ち寄った本のリストはみんなで意見交換する前のものであること等、資料について配慮しなければならないこともありますが、様々な事情で参加できなかった小学校のみなさんとも交流会の成果を分つことができたのはとてもうれしいことでした。

来年度以降、読書ボランティア支援という本来の目的に沿って一層内容を深め、あわせて子どもと本に関心を持つ図書館利用者のニーズにも応えられるような、講座・交流会ができればと思っているところです。　（永井）

参加者の感想

「えほんたいけん・えほんたんけん」

中川あゆみさんのお話をお聞きして私は「字が読める事は技術で、本が読める事ではない。」という言葉にハッとしました。というのも今春、小学校に入学した娘は文字を覚えて、以前ほど私に「えほん、よんでー」と言わなくなり、代わりに一人で伝記や歴史物の漫画を眺める事が多くなっていたからです。

絵本から娘との豊かな時間をもらっていた私は、もう少し絵本の世界を楽しんで欲しいのになぁと少し寂しく感じていました。

お話の中で「本が読めるという事は、本当に絵本を楽しむ力があるという事。読み聞かせは、本の内容を届けるのが目的ではなく、読み手の心を伝える事であり、子どもたちは読んでもらうことで読み手と、ことばの体験の共有をしながら絵本や物語を楽しむ力を育てていく。」とのことで、「漫画への本人の興味も大切にしてあげながら、絵本や物語にも帰ってこられるといいですね。」ということを仰っていたのを聞いて改めて、絵本の大切さ、絵本の力を実感しました。

また、絵本の奥深さ、本当の楽しさを届けるために絵本には様々な特性を付けて考えられている事を、実際に絵本を読んで頂きながら伺っていると、子どもの感性に寄り添って丁寧に大事に作られているのと同じように、子どもも大切に育てていくという思いが伝わってきて絵本がよ

り温かいものに感じました。

宿題でも音読があって、つい表面的な読める事に気が向いていましたが、読んであげること、読んでもらうことで子どもにも優しい記憶となって、ことばの体験が繋がっていくことや、溢れる情報量から選びとる思考力、判断力が必要な子どもたちだからこその読み聞かせの重要性が分かった気がします。

紹介して頂いた絵本から早速、娘にもまだまだ目一杯読んであげたいなと思いました。（木村）

「やってみよう！読み聞かせ」

私の読み聞かせの経験と言えば、専ら自分の息子（今は小1）に対して、彼が文字を読めない頃から、ヒザ抱っこの体勢で、私が音読するパターンだけ。本に対する目線は、私と息子は同じ方向だし、その本選びも、絵本に詳しい方から勧めていただいたり、自分の趣味で選んだものばかりでした。

この日の山口司書のお話は、おはなし会に向く絵本の条件と、子ども達の前での読み方（絵本の持ち方、読み方）という内容の実践的で、実演も交えた分かりやすいもので、大変興味深かったです。会場の大きさ、聞き手の年齢、人数から、季節を考慮した本や自分自身も子ども達に「読んであげたい」と思える本を選ぶこと。また、大きい声で、はっきりと、読む速度、めくる速度、イントネーション、間を取る、余韻も大切…か。

ん～、なかなか難しそう（汗）。

後日、講座の内容を思い出しながら、家族を前に、「読み聞かせ」したところ、相手の視線、集中度、反応などがダイレクトに返ってきて、今までとはまた違った面白さを感じました。私にとって、「読み聞かせ」の奥深さを実感する、楽しい講座でした。（窪田）

科学絵本・科学読み物ブックトーク

「身近な虫から広がる世界」をテーマに、京都科学読み物研究会の島崎真紀子さんが、科学の本のブックトークをしてくださいました。読み聞かせボランティアとして日頃から子ども向けの本に接している私は、読み聞かせに向く物語を手に取りがちで、科学の本はあまり詳しくありません。そのため今回は、科学の本の魅力は？ 選び方は？ と関心を持って参加させていただきました。

はじめに、セミが主人公の絵本を読んでくださいました。創作された物語なのに科学に基づいた内容なので、なぞ解きのような楽しさです。そうして科学の本への敷居が低くなったところへ、読み聞かせに向く絵本、調べる時に役立つ図解の本、リアルな写真の本、研究の仕方をやさしく語った本、さらに大人向けの本と、様々な角度からセミの世界を知らされ、どんどん深い方へと導かれていきました。他にもホタルやクモの美しさ、不思議さについての本が紹介され、これら選びぬかれた数々の本により、身近な虫たちへの理解も深まっていきました。このように、やさしい絵本からより詳しい本へすすめていく、という科学の本ならではの読み方があることに驚き、また、興味ある部分だけを拾い読みするのでもかまわないと教わり、敬遠していた科学の本も積極的に読んでみたくなりました。最後に、「科学の本で興味を持ったら実際に外へ出かけていって、観察することが大切です。そしてまた本に戻ってください。」としめくくられました。

今の時代は情報が切り貼りの状態で氾濫していて、受け手にとってそのような情報は無機質に素通りしていくのみです。科学の本は、自分のなぜなに？ に答えてくれるものでありながら、そこには対象に向かう著者の情熱があります。このような良質な科学の本を、私自身も楽しむと共に、子どもたちへも紹介してあげたいと思いました。

（松田）

実践交流

「何を読む？」「どう読む？」

この二つの迷いは、いつも私の中にあります。毎年9月に開催される「読み聞かせ」交流会は、この迷いの中の、励ましの光になってくれます。

実践交流では、少人数のグループに分かれて持参した絵本の読み聞かせをします。読む際には、なぜその本を選んだのかを尋ねられます。いつも本を選ぶときには何かしら理由があるはずですが、改めて説明するとなると、自分が求めているもの、好きなものがよく見えてきます。

また、「聞く体験」から気づくことが思いのほか多くあります。大声を張り上げなくても聞こえること。絵がよく見えないと残念なこと。本が揺れると気が散ること。読んでもらうのは楽しいということ。

読書は個人的な経験ですが、読み聞かせでは共通体験として記憶されます。笑い声も突っこみも静寂も本の一部になるように、これからもお話の時間を届けたいと思います。（宇佐美）

講演会「左京区歴史散歩～近現代の史跡を訪ねて」

とき 2011年1月15日（土）
午後2～4時
ところ 左京図書館（3階会議室）

佛教大学歴史学部教授　原田敬一氏

古代や幕末は大ブームですが余り語られることのない近現代史、
身近な史跡を手がかりに、ご一緒に学んでみませんか。

◆図書館友の会けやき・左京図書館 共催◆

図書館友の会けやきの仲間になりませんか

知りたい、調べたい、本の世界を楽しみたい

そんな私たちの望みをかなえ、
一人一人の世界を豊かにしてくれる場所。
それが私たちの願う図書館です。

左京図書館が今後もこのような市民みんなの図書館としていきいきとあり続けるために、私たち市民利用者は何ができるのか考え、活動したいと1999年に「けやき」立ち上げました。
図書館のスタッフとともに、左京図書館はじめ京都市図書館を支え、育てていきませんか。

次のような活動をおこなっています

であいの森
左京図書館のおたのしみ会（毎月第４土曜日11:00ー）に協力。絵本を読んだり、ブックトーク・人形劇やおはなしも。

「赤ちゃんに絵本を」サポーター
毎週木曜日10:30ー12:00、左京図書館絵本コーナーで絵本探しのお手伝いをしたり、絵本を読んだりしています。

誰もが利用できる図書館を考える
図書館の現状を調べたり、図書館に提案をしています。

ニュースレター編集部
友の会のニュースレター「けやき」を作成し、図書館と利用者を結ぶけやきの活動の情報を発信しています。

事務局
けやきの活動の企画提案。図書館行事に企画・協力。
各グループ間や左京図書館との連絡調整を行っています。

絵本学習会
毎月第４金曜日10:00ー。取り上げた絵本をみんなで読み合い語り合う楽しい学習会です。

講演会・学習会
主催または図書館との共催で年に数回、地元の講師を中心に様々な興味深い講演会・学習会を行っています。

◆入会希望の方は、年会費500円をそえ下記事務局または郵便振込口座にお申し込みください。

事務局　京都市左京区高野東開町1-23　26-101　永井方
TEL/FAX 075-721-2625
郵便振込口座　口座番号　００９２０-８-１５６９１４番
口座名称　図書館友の会　けやき
年会費はニュースレターの印刷および郵送費の一部に充当します。

◆活動費のカンパも歓迎します。直接又は上記の振込口座をご利用下さい。

京都市子ども文庫連絡会25周年記念事業

右手和子さんの かみしばいのはじまりはじまり

日時：12月５日（日）午後2～3時30分
場所：左京図書館の上階、３階会議室
紙芝居の名手、右手和子さんが東京より来演。大人も、子どもも、ぜひご参加ください
(左京図書館・京都市子ども文庫連絡会 共催)

冬のスペシャルお楽しみ会

日時：12月18日（土）午前11～12時
場所：左京図書館の上階、３階会議室
巻き絵「いっすんぼうし」やクリスマスにちなんだ工作など、楽しいプログラムがいっぱいです。ぜひきてくださいね。

新企画 ***図書館で発表***

「図書館利用によって、こんなことができました」ということを発表しませんか。

「図書館で借りた本を見て作った物」「写真・絵などの上達のためにこの本が役に立った」「旅行のプランを作った」「サークルの学習会に使った」「(子どもの夏休みの)自由研究」「仕事をするため」…

2011年2月下旬の１週間程度、左京図書館内の壁面に展示して、みなさんに紹介します

内容：◇実物　または　写真
（最大１m四方くらいまでの平面）
◇参考にした図書館の資料【本の題名・著者・出版社など】◇一言感想
◇お名前(イニシャルでも)

詳細・申し込みは案内チラシ参照
(図書館友の会けやき主催・左京図書館共催)

編集後記

民間委託業者でコロナ無理な話（り）
きないっぱいもコロ変わる。
てみるはいるコ職員コなわとっ
しがいつ継続司書的やにとりるで
た民間限りの書ここ関わ組れ
都市左京下様々な利用取りう
市左京下様々な利用取りう広
左京下様々な利用取りう広が
京下様々な利用取りう広がる
下様々な利用取りう広がる市
様々な利用取りう広がる市京
々な利用取りう広がる市京（き）
な利用取りう広がる市京て
利用取りう広がる市京て図
用取りう広がる市京て書
取りう広がる市京て書あ
りう広がる市京て書あ
う広がる市京て書あ
広がる市京て書あ
がる市京て書あ
る市京て書あ
市京て書あ
京て書あ
て書あ
書あ
あ

◇けやき　第34号　2010年11月29日

◇制作　図書館友の会 けやき　ニュースレター編集部
題　字　高野のYさん　タイトルバック　岩倉のＳさん
カット　高野のＨさん

◇発行　図書館友の会　けやき
京都市左京区高野東開町1-23-26-101永井方
TEL/FAX 075-721-2625